

企画力 試作 多品種 小ロット 短納期 コスト相談



完成した組立工場

金属加工・組み立て

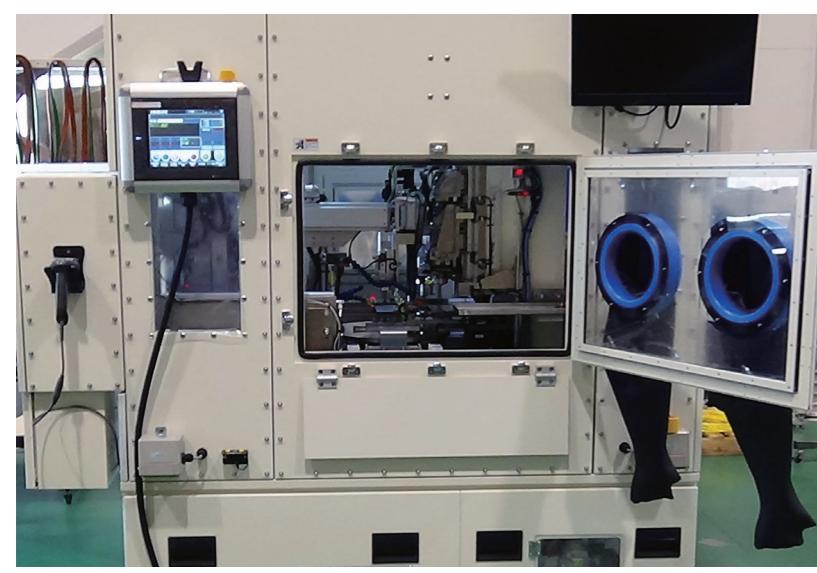
**大東工業
株式会社**

主な事業内容

自動化・省力化装置の設計・製造

主な製品

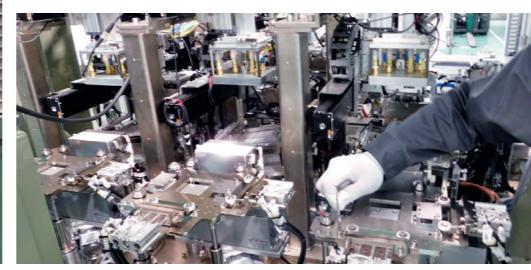
(各種自動)検査装置・組立装置・梱包装置・搬送ライン



カスタム装置の例



本社工場



工場内の作業風景

事業内容と沿革 時代の流れを捉えて成長

顧客に合った自動・省力化装置の設計、製造、製作業務を主にする。構想設計から部材製作・組み立て、そして現地でのセットアップ、アフターフォローに至るまで、全て同社がワンストップで提供できる体制を整えている。

同社の創業・設立は1964年。半導体製造装置部品の精密金型の製作からスタートした。間もなく装置を納めるようになり、やがて図面やソフトなども順次手掛けるようになった。しかし半導体製造装置はシリコンサイクルによる繁閑の差が激しく、その差を埋めるためにも、やがてプラズマ、液晶、太陽電池向けの製造装置へと対象を拡大していき、近年では売り上げの半分以上を自動車向け装置が占めている。

時代の流れをうまく捉えそれによって工場の増設を行ってきた同社は、価格競争力を身に付けるために2011年、ベトナムにて加工工場を設立した。

近年でも新工場の設立など今後も企業として更なる飛躍を目指し日々発展を続けている。

強み

高品質・短納期・低コストを実現する体制

もともと顧客が新しい製品開発に乗り出す時の部品の製造装置は、「世の中にはないもの」を求められることが多い。特にこうした開発要素を伴うところでは、どうしても長年の知識や経験に基づく高い技術力で、「高品質・短納期」をいかに両立するかが試される。時代時代の成長産業の要望に対応してきた同社には、その点、「顧客に期待以上の装置を提供できている」との自負がある。

この強さを構成しているのは主に以下の5つの点にある。

まず第1が同社の組織にある機械設計課、制御設計課、機械課、組立課の連携が非常に強いことが挙げられる。これにより大幅な

全社員一丸となってモノづくりに貢献

「高品質・短納期・低コスト」をモットーにモノづくりに貢献することを企業使命とし、全社一丸となって取り組んできました。社会は急激に変化しています。今後も常に社会に貢献する製品価値とは何かを考え、創造していく明確なビジョンを持ち、全社員で共有し続けていきます。

代表取締役社長
森 誠一さん

やる気と責任感。
為せば成る。

住 所	〒611-0041 京都府宇治市槇島町十一170-3
T E L	0774-23-6221
F A X	0774-20-0788
創 業	昭和39年12月
設 立	昭和39年12月
資 本 金	2,000万円
従 業 員	72名

<https://daito-industry.com/>



リードタイムの短縮を実現できる体制が確立されている。

第2に機械設計から電気ハード設計・ソフト設計、制御盤の製作、組み立て・配線、試運転(デバッグ・調整)まで、内製にて一貫した対応ができる。

第3はこれまで積み上げてきた実績によるさまざまな装置に対する制御技術、国内外問わず対応できる体制が整っており、顧客に対し非常に柔軟性の高い対応を可能にしている。

第4に熟練のノウハウが求められる組み立て工程では、国家資格など各種資格を持つ技術者が対応していること。また、独自の生産管理システムにより、部品1点1点の納期管理から装置製作の進捗に至るまで徹底管理し、「納期遅延ゼロ」を実現する体制が整っている。

そして最後の第5に挙げられるのは、多種多様な保有設備があること。門型五面加工機があることで大型の機械加工にも対応できる。部品の大小だけでなく、マシニング加工、NC(数値制御)旋盤加工、研削加工など素材を問わず多様な金属部品の製造を可能にしている。

今後の展開

社会貢献も視野に
エネルギー・環境対策も

同社では10年後を見据えた設備投資を積極的に行っている。その一環として、2022年2月に本社周辺にまた新しい組み立て工場が完成したばかり。今後は人材不足の時代に向け、ロボットを活用したソリューション提案を強化していく。エネルギー・環境対策面での社会貢献も大きなテーマだ。顧客の生産プロセスの改善や二酸化炭素排出削減機器などにも力を入れていく考え。また、安定した稼働率を確保するため他社のOEM生産に乗り出することも検討中だ。

「顧客からの要求には全社員が一致団結して対応する、という社風が強く根付いている」と森誠一社長。同社では設計や加工現場でも女性が活躍する。他の部署への展開やベトナム工場からは品質向上を目指して社員の受け入れも検討を行っている。同社の将来のカギを握るのは若い世代。彼らが「未来ある企業」と思えるような雰囲気作りを今後も追い求めていく。